

ちょこっと

保幼小連携・接続 ハンドブック



京都市子育て支援総合センターこどもみらい館
第4期研究プロジェクト

子どもの心の育ちの連続性研究プロジェクト

こどもみらい館では

国公立・私立，保育園(所)・幼稚園・認定こども園の垣根を越えた「共同機構」の取組として，研究・研修に取り組んでいます。

平成16年度に立ち上げた「保育の質と保幼小連携」をテーマとした研究プロジェクトは，第1期，第2期，第3期と積み上げ，平成30年3月末に第4期を終了することができました。

第4期では，「子どもの心の育ちの連続性」を主題に掲げ，民営保育園，市営保育所，私立幼稚園，国公立幼稚園，民営認定こども園の先生方に加え，小学校の先生にも参画いただき，園からの思いだけでなく，園と小学校双方の思いを重ね合わせるすることができました。

フィールド園校をお願いした幼稚園と小学校には，たくさんのエピソードや事例，保育・授業参観などを提供いただきました。また，参画いただいた先生方からは，それぞれの園校の取組を紹介いただき，楽しく語り合うことができました。

語り合いの中には，たくさんの気づきや学びがありました。そして何よりも，互いが顔見知りになり，知り合えたことが大きな財産となりました。

平成29年の保育所保育指針，幼稚園教育要領，幼保連携型認定こども園教育・保育要領，小学校学習指導要領の改訂の中では，保幼小接続が大きく謳われています。新しく始めることには，負担感もあり，時間もかかるかもしれません。けれど，この研究プロジェクトに参画された先生方は，子どもにとって，そして先生としての自分にとっても，連携や接続をすることはとても意味あるものだと思っています。ただけたようです。その思いを少しでも園や小学校の先生方に伝えられればと願い，この冊子を作成しました。パラパラとめくっていただいた後に，「ちょっとやってみようかな」と思っていただければ，これほど嬉しいことはありません。

目次

-  保幼小連携・接続をするのは何のため？
-  つなげたいのは「心」です
-  大人の心のもち方をつなげるためには
-  何から，どこから
-  年間スケジュールの一例 =先生たち=
-  年間スケジュールの一例 =子どもたち=
-  連携・接続のポイント
-  引き継ぎのポイント
-  実践例
 -  給食指導で悩んでいます
 -  小学校の先生のお尋ねから
 -  園の先生のお願ひから
 -  子どもの姿を追って
-  小学生の姿から園の保育を
-  保護者支援もつなげる
-  子どもの幸せのために
どこからでも，だれからでも
-  この時期の子どもたちにかかわる者として 共に

ちよこつと

保幼小連携・接続 ハンドブック



このハンドブック内では

保育園（所），幼稚園，認定こども園等を
まとめて「園」

保育士，幼稚園教諭，保育教諭，小学校教諭を
まとめて「先生」

と表記します。



はじめに

保幼小連携・接続をするのは何のため？

それは、子どもの幸せのため
その時期、その時期を
その子らしく生き生きと過ごせるため

「子どもを理解したい」「よりよく育ててほしい」
そう願うのは
園の先生も小学校の先生も同じこと

だけど
意識するところの度合いや方向が違うのかな

でも
子どもの育ちは一生涯続いている
子どもの心はつながっている

小学校入学を境に大人のかかわりが変わると
子どもはとっても不安になってしまう

子どもが **安心・安定** して過ごせるために
大人の心のもち方をつなげたい



園の先生



子どもの心は
それぞれの施設で
育ちきるものではありません

園の先生は
その後の育ちを知り
乳幼児期にこそ大切にしなければならないことを

小学校の先生は
これまでの育ちを知り
その上に育ちを重ねることを

子どもの心の育ちを真ん中において
見つめ直し

子どもにかかわる大人が
しっかりとバトンを
つないでいきましょう

小学校の先生



その後に出会う
様々な先生や大人の方

つなげたいのは「心」です



乳幼児期に大切にしなければならないこと、小学校へつなげていきたいと考えることはたくさんあります。けれど、その中で一番大切にしたいのは、「子どもの心の育ち」だと思います。

乳児期には、特定の大人（先生）との間に「この人がいれば大丈夫」という心が育つことを大切にしています。その人が子どもにとって安心の基地となることで、外の世界にも気持ちが向き、探索に出かけていきます。不安なことや嫌なことがあれば、安心の基地である人のところに戻ってきます。そこで安心感を満タンにして、また出かけていくのです。そのような繰り返しの中、人に対する信頼感、大切にしてもらえる自分自身への根本的な自信が育まれていくと思います。



幼児期には、安心の基地をよりどころとして、周りの大人（先生）や友達にも関係が広がっていきます。何かができてもできなくても「自分は大切な人なんだ」と思える自信を大切にしたいと思っています。そのためには、子どもの負の姿もまるごと受け止め、子どもが安心感に包まれた中で、その子に応じた援助をしながら、子ども自らが育っていくことを信じて待ち、子どもが育とうとしている「今」を見逃さずかかわっていきたいと思っています。



小学校 では、教科学習が始まり、カリキュラムの中で到達する目標が明確になってきます。「できるようになること」も目指していきませんが、その根底には、一人ひとりの子どもの気持ちの在り様や心の動きに思いを寄せることが大切だと思っています。入学当初、まずは先生が一人ひとりとつながることを大切にしています。一人ひとりが安心・安定することで、周りの人ともつながり、友達に、そしてクラスの仲間へと関係が広がっていきます。それは乳幼児期でも小学校でも同じです。そのような関係が育っていなければ、授業は成り立ちませんし、学習も身に付きません。



入学式の翌日から子どもは一人で登校してきます。「先生、おはよう！」と以前から知り合いだったかのような様子で教室に入ってくるのを不思議に思っていました。それは園の時代に「先生は自分のことを大切にしてくれる人だ」という思いが育ち、「学校の先生もきっとそんなに違う」と思っているからだと気が付きました。園での育ちを知ることで、その子その子の良さやつまずきそうなところも分かり、早くに関係を築くことができました。

園の先生も小学校の先生も、子どもの心を大切にしたいと思っています。中学校、高等学校、その先に出会う大人もそのように思っていることでしょう。皆大切にしたいと思っていることは同じなんです。大人の心のもち方をつなげていくことが、子どもの心の育ちをつなげることになるのだと思います。

大人の心のもち方をつなげるためには



まずは **知る** ことが第一歩

0歳, 1歳, 2歳, 3歳, 4歳, 5歳の子どもの発達ってどんなの？

保育や園での生活ってどんなの？

先生方はどんなところを大切に育ててこられたの？

子どもたちはどんな経験を積んでどんな育ちをしてきているの？

園の先生の仕事ってどんなことがあるの？

園の先生の大変さや不安なことってなあに？



小学校の先生

例えば

「あいさつ」「椅子に座る」「けんか」「給食」などのキーワードからそれぞれが具体的な活動の中で子どもがどのように育ってほしいと願っているのかどんな工夫や援助、支援をしているのかそのとき子どもはどう感じているのだろうかと思いを巡らせ互いのことを知り合ってみてはどうでしょう。

6歳、7歳、8歳・・・の子どもの発達ってどんなの？

授業や小学校での生活ってどんなの？

先生方はどんなところを大切に育てていかれるの？

子どもたちはこれからどんな育ちをしていくの？

学校の先生の仕事ってどんなことがあるの？

学校の先生の大変さや困りごとってなあに？



園の先生

何から，どこから



保育所保育指針，幼稚園教育要領，幼保連携型認定こども園教育・保育要領，小学校学習指導要領に，乳幼児期に育まれてきたことを小学校につなげていこうと謳われています。「保幼小連携や接続をしていきましょう」「小学校ではスタートカリキュラムを作成しましょう」と言われています。

でも・・・

実際は様々な思いや課題があるようです。

何から始めたらいいのか・・・

これまで全く関係のなかったところへどう声をかけたらいいのか分かりません。

なかなか条件が厳しくて・・・

相手先が何十箇所もあります。全部と同じようにつながるのは無理です。かといって，どこかとだけでは不公平になるのではと心配しています。

こちらはしたいと思っているのですが・・・

今までに訪問させてもらったことがあるのですが，あまり歓迎してもらえていなかったように感じました。迷惑になるのではと二の足を踏んでいます。

忙しい中，時間を割いてまで
取り組むだけの価値はあるのでしょうか・・・

日々の取組だけで精一杯です。自分のところでしっかりと育てればいいことで，わざわざ連携したり接続したりすることで，メリットがあるとは思われません。

そうですよね～。わかる，わかる。
うちではこんな感じでやってみました。



全園とつながるのは難しいですが
まずは校区にある園に声をかけてみました。

今年度入学してきた児童のいる全園に
1年生の授業参観と連絡会の案内を送りました。
全園ではありませんでしたが
たくさんの園が来てくださり
子どもの姿を通して話が弾みました。



「よく来てくださいました」と笑顔で対応していこうと
全職員で共有しています。
先生同士が顔見知りになれたことで
ちょっとした心配ごとでも
気軽に連絡し合えるようになりました。



互いに忙しく交流する時間は持てませんでした
子どもたちが小学校の中庭で遊ばせていただきました。
そのとき「せっかくだから1年生の授業風景を見ませんか」と
声をかけていただきました。
子どもたちは小学校への緊張が和らぎ，憧れで胸がいっぱいです。



入学までの子どもたちの育ちや背景を知ろうとすると
そのときには時間は必要ですが
一人ひとりの子どものことがよく分かり
早くに信頼関係を築くことができ
結果的には後々が楽になるように感じています。

こんな取組をされているところがあります

年間スケジュールの一例 =先生たち=



小学校の先生が園へ

一緒に・

4	入園式参列	入学前の数年でこんなに違うのかとびっくりです。	年間を通した地域の保幼小連絡会
5	入学児童が卒園した園との保幼小連絡会	今の姿と園での様子を重ねることで、子ども理解と支援の方法が広がりました。1年生になってからの育ちを一番に喜んでくれるのも園の先生です。その後も連絡を取り合い、相談にのってもらいました。	
6			
7	園の保育体験	遊びの中の学びを実感しました。ねらいや配慮が一人ひとりに丁寧にありました。	
8			
9	園訪問	いつもは教務主任が配っている「学校だより」を1年担任が園に届けました。とても歓迎していただき、園内を見せていただいたり、子どもたちのことをいっぱい話し合ったりしました。	年間を通して ・保育・授業参観 ・園校内研修参加 ・研究発表会参加
10	運動会参観		
11		長期間開催されているので、空いている時間を見つけて行くことができます。子どもの作品を通して、園での姿を垣間見ることができました。図工の教材研究や子どもの作品をいかす展示の方法など、1年の担任としていかなることがいっぱいありました。	半日入学 ↓ 次年度入学児童の聞き取り ↓ クラス分け
12	作品展見学		
1			
2	生活発表会参観		
3	卒園式参列	なんと凛々しいこと！園の年長者として自信にあふれた姿でした。	次年度入学児童の引き継ぎ

互いに

園の先生が小学校へ

入学式参列

最初は管理職同士の会でしたが、直接子どもとかわっている担任などが参加することで、「うちの子」ではなく「この子」の話になり、具体的な情報交換になりました。

大きくしっかりと育ったなあと思っていた子どもたちが、小学校の中ではとてもかわいらしく見えました。配慮の必要な子どもには、入学式の事前練習をするなどの配慮もいただき、見通しをもって安心して参加していました。

1年生のクラスの1日参観

実際の子どもの姿や事例を通して、様々な先生方と語り合うことから気付くことが本当にたくさんあります。まずは互いを知り合うこと！これが一番大切だと感じました。

様々な場面で、子ども一人ひとりをつながろうとされている先生の姿は、乳幼児期に大切にしていることと同じだと思いました。

運動会参観

出身園を越えて様々な友達と力を合わせて取り組んでいる姿を見ることができました。

これまで関係を築いてきたことで、1年生を迎えるにあたって有意義な情報が引き継がれるようになったと思います。子どもにとって安心・安定できるクラス分けができたのではないかと考えています。

小学校6年間の成長に驚きます。先の姿を見通して、改めて日々の保育を見直したいと思いました。

卒業式参列 要録送付

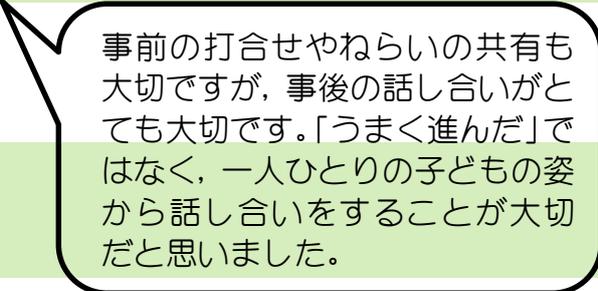
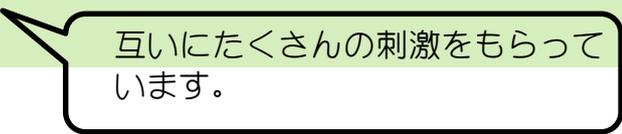
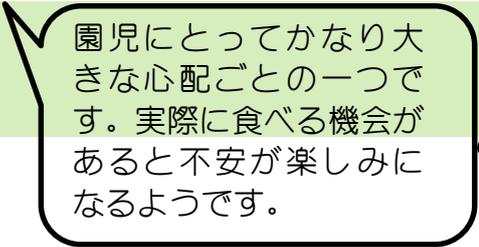
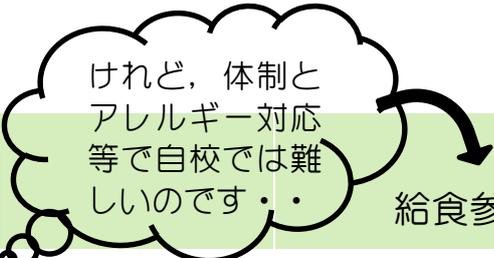
子どもたちが小学校生活を生き生きと過ごして欲しいと願い、要録を持って小学校の戸をたたきます。要録には書きとめられなかったこともあります。その場で少し伝えられると嬉しいです。また、この後も何か気にかかることがあれば、いつでも連絡してください。

こんな取組をされているところがあります

年間スケジュールの一例 =子どもたち=

園児と小学生の交流

園児が

4	年間を通して ・生活科等で交流	
5	 <p>事前の打合せやねらいの共有も大切ですが、事後の話し合いがとても大切です。「うまく進んだ」ではなく、一人ひとりの子どもの姿から話し合いをすることが大切だと思いました。</p>	
6		
7		小学校のプールに入る
8		
9	運動会に参加	校庭でかけっこ
10	学習発表会・生活発表会の見学・参加	中庭で虫取り
11	 <p>互いにたくさんの刺激をもらっています。</p>	
12		作品展の見学 校庭で凧揚げ 授業参観
1	給食交流	
2	 <p>園児にとってかなり大きな心配ごとの一つです。実際に食べる機会があると不安が楽しみになるようです。</p>	 <p>けれど、体制とアレルギー対応等で自校では難しいのです・・・</p> <p>給食参観 (給食試食会)</p>
3		

小学校へ

近くの園と交流

小学生と一緒に入るのはカリキュラムや安全面から難しいかもしれませんが、けれど、プールのない園もあります。低水位のときに少し水遊びをさせてもらったり、プールの施設を見せてもらったりするだけでも、憧れと安心感につながります。

園外保育先を合わせる

来年度同じ小学校に入学する子ども同士が、入学前から顔見知りになっておくことで、入学時の不安が楽しみになっているようです。

小学校別にグループを作って、1年を通して一緒に遊んだりする機会をもち、名前と顔を覚えられるようにしています。

何もかも園よりも規模が大きい小学校。見たり、使わせてもらったりするだけでも、子どもたちはほっとするようです。子どもも保護者もちよっと心配している小学校のトイシ。使わせてもらっておくと、安心したり、家や園で和式の使い方を練習したりできるかもしれませんね。

自園の運動会が終わり、体を思い切り動かしたり、ルールのある遊びが楽しくてたまらなくなったりするこの頃、これまで交流してきた他園の子どもたちが集まり、たくさん遊ぶと、より楽しさが膨らみます。

合同運動会ごっこ

1年生が食べている様子や給食当番をしている姿を見せてもらうだけで、とっても安心できました。

生活発表会見合い

在校生保護者に実施している給食試食会を、来年度入学する子どもの保護者にも広げ、案内をしました。給食はもちろんのこと、児童の持ち物にも関心をもたれたり、在校生の保護者にも不安なところを相談されたりして、保護者の安心感にもつながりました。保護者の安心感が子どもの安心感にもつながると感じました。

連携・接続のポイント



互いを知り，つなげ，
子どもの成長を共に喜び合おう

その 1 名前と顔が分かる関係

ちょっとした話の中に互いを知り合うことのできる大切なことがいっぱいあります。
遠くても電話ができる関係ができていると気軽に相談できます。

その 2 園や学校を見せてもらう

例えその場に子どもがいなくても，どんなところで子どもが過ごしてきたのか，過ごしているのか，実際に見ることで感じるということがいっぱいあります。

その 3 交流は回数ではなく質

事後の話し合いがとても大切。
授業や保育がうまく進んだかではなく，子どもの姿を通して話し合うことがキーです。

その 4 やってよかったと実感できること

継続していくためには，時間を割いてでもやってよかったと双方が思えることが大切です。
それはなにより，子どもが安心・安定し，成長していく姿を共に喜べることだと思います。

引き継ぎのポイント



子ども・園の先生・小学校の先生・保護者の
安心感，信頼感につなげよう

その 1 入学前と後の2回が効果的

入学前には，クラス編成，学校体制，担任などを考える手立てにいかせます。

入学後は担任が一人ひとりの支援やクラス運営にいかせます。

その 2 ちょっとしたエピソードを添えて

「リーダー性のある子」「おとなしい子」は人によって捉えが違ふことも。

抽象的な表現よりも，ちょっとしたエピソードがあると成長の過程や課題がよりよく伝わります。

その 3 園の先生の願いを伝える

「こんなふうに育って欲しい」「こんなところに気を付けて見て欲しい」からその子の良さやつまずきそうなところが分かり早くから具体的な支援ができます。

その 4 保護者や家庭の状況

今見えている子どもの姿の背景も含めて捉えることで見方や支援が変わります。

保護者の安心が子どもの安心感につながります。



研究プロジェクトの中では
それぞれの先生方の事例やエピソード
悩みや嬉しかったことなどから
話が膨らみました。

話が盛り上がると
時間も忘れてしまうほどです。
やはり子どもを真ん中にして語り合うのは
楽しいものですね。

その中から給食をキーワードに
いくつか事例を紹介します。
この取組が決してベストなのではありません。
自園校の子どもたちの姿から
話し合うことに意味があると思います。

みなさんのところで
どのような話が出るのか
楽しみですね。



実践例 =給食編=

給食指導で悩んでいます

互いのことを知り合うきっかけに、1年生の先生が園の先生に聞きたいことから始めてみました。

1年生の先生からは、「給食指導で悩んでいます。園では食べることについてどうしていますか？」とお尋ねがありました。

家庭での食生活や考え方、食事のマナーはそれぞれです。

幼稚園はお弁当、保育園（所）や認定こども園では給食など、園によって様々です。

子どもの心の育ちを真ん中に置いて、一緒に「給食」について考えてみました。

給食に関しても、子ども一人ひとり様々。

食の細かい子や好き嫌いの多い子どもには

大きなハードルになっているよう。

いつも同じ子どもが遅くまで残って辛そうにしていたり

給食の時間が嫌で学校に行きにくくなる子どもがいたりします。

みんなが気持ちよく完食してくれるといいのですが・・・

給食でつまずく子どもをなくしたいのです。





実践例 =給食編=

小学校の先生のお尋ねから

園でしている工夫ってありますか？



うちの園では、以前は一定量を盛り付けていましたが、大盛、中盛、小盛を用意して、子どもが自分で考えて選べるようにしています。

やってみました！

給食時間はいつも食べきれなかったマリちゃん。小盛を完食し嬉しそう。「おかわりしてみる！」と更に小盛のおかわりに挑戦です。

憂鬱だった時間が嬉しい時間になり、結局前より食べる量は増えています。

大盛を選んだけど、ちょっと後悔気味のユウスケくん。「ちょっと多かったかな…でも自分で選んだから食べきるね」と完食しました。

自分が選び決めたことには責任を持ち食べきります。

今日はランコちゃんとコウヘイくんが給食当番です。

ランコちゃんの隣の席のコリちゃんが

「ランコちゃんはこのおかず苦手だから小盛にしておいてあげよつと。一緒に食べるのにご飯がたくさんいるよね。だからご飯は大盛にしておこう」とつぶやきながら代わりに配膳してあげていました。

コウヘイくんは朝からタマエちゃんに

「ぼく、今日のおかず大好きだから大盛にしてね」と頼んであったようです。

自分の思いを言葉で友達に伝えたり、友達の気持ちに思いを馳せて行動したりするようになりました。

給食を通して、子ども同士でのコミュニケーションがぐんと増えました。



給食の時間を通して、子どもたちが自分でできるようになったり、自分たちで考えてやっていこうと思えたりするように、心が育ったように思います。

何より、今困ったりしんどい思いをしたりしている子どもが、少しでも気持ちが楽になったことがとっても嬉しいです。

小学校の先生が、お話を聞いてくださり嬉しかったです。

園児と小学生とでは大きく違うように思えますが、子どもの発達はそんなに変わらないものですね。同じ年頃の子どもたちとかかわっていると考えると、たくさん共有できるものがあるのだと思いました。



園での生活や育ち、そこで先生方が何をねらいどのような

援助をされているか知ることで、1年生への支援も変わってくるかもしれません。

やらせる方法でなく、子どもがやりたくなる支援の引き出しが増えるといいですね。





園の先生のお願いから

給食交流をして欲しいのですが…

子どもが体験することはとても大切なこと。やりたい気持ちはやまやまです。けれど、調理の数、設備や場所の確保、対象園の数、アレルギー対応など、クリアしなければならない事案が多く、新たに始めようと思うと、小学校としてはかなりハードルが高い行事でもあるのです。

こんな方法でやってみました！

給食参観

1年生が給食当番をしたり、食べたりしているところを5歳児が見せてもらいました。参観前には栄養教諭から学校給食についての話を聞きました。

1
年
生

給食当番はてきぱきと動き、苦手なおかずがある子どもも完食していました。

自分よりも小さい子どもたちが見ていることで、1年生は大はりきりです。

栄
養
教
諭

5歳児の子どもたちが分かるように、給食への不安が軽減するように、食の大切さが伝わるようにと工夫を凝らして話をしました。

全教職員が「1年生が安心して就学を迎えられるように」と思いを共有することはとても大切です。それぞれの専門性をいかして力を発揮できる場があります。今回は栄養教諭が大活躍です。

5
歳
児

少し不安そうにやってきたケイコちゃん。給食参観後には「すっきりしたー！」と表情が和らぎました。

周りから学校給食について様々に聞いていたのでしょう。色々想像してみるものの、期待と共に不安も膨らんできていたのかもしれない。見るという体験を通して、不安に思っていたことが自分なりに納得できたようです。食に不安のある子どもにとっては、実際に給食を食べてみるよりも、安心して参加できたのかもしれない。

保護者の 給食試食会

在校生の保護者に対して行う給食試食会を、就学前の保護者にも広げてみました。1年生が給食を準備しているところや食べているところも見させていただきました。

給食の内容や1年生の様子を見ることができて安心されたようです。

保護者が不安な気持ちでいると、子どもにも不安が伝わってしまうものです。保護者が安心することで、子どもも安心して学校給食を楽しみにすることにつながります。

在校生の保護者と一緒に食事をする中で、自然と会話が弾み、色々な悩み相談会にもなりました。

学校生活全体についての不安解消にもなりました。また、入学前から地域につながりができることは、大きな安心感につながります。

入学準備で必要な持ち物についての質問がたくさんありました。

園では入園前から見学会などが頻繁にあるため、園での生活の様子を見る機会が多いのかもしれませんが、入学前に小学校の様子が分かりにくいことも、敷居が高いと感じてしまう一因かもしれません。例えば、自由参観日などに就学前の保護者にも案内してはどうでしょう。

子どもの安心につながることで、それぞれの実情もあり思うようにできないこともあります。相手の状況や大変さを尊重し合い、現状の中でできることはないか一緒に考えてみましょう。案外いいアイデアが生まれるかもしれません。



また、直接かかわる先生だけではなく、様々な職種の方、保護者も巻き込み、子どもたちが安心して小学校入学を楽しみにできるように雰囲気を作っていけるといいですね。



実践例 =給食編=

子どもの姿を追って

野菜が苦手なサトミちゃん。給食で困っているのではないかと心配です。

少しの量から始め、少しずつ量を増やしていくことで、案外早くに完食するようになりました。園の先生が心配されるような子どもではないように思いましたが・・・

園と小学校でのエピソードを持ち寄り、引き継ぎをしました！

園での姿から

少し控えめで自分から前に出てこられないようなところがあったサトミちゃん。5歳児の夏、お泊り保育の相談をしているときに、アイディアを出し、友達にそのアイディアが認められとても嬉しく感じました。

お弁当では、長い間、先生に「食べさせて」と。小さい子どもにはすることもありますが、5歳児には・・・とも思いましたが、友達も見ている中で求めてくるのはきっと彼女にとって必要なことなのだと思います。食べさせてあげること続けていました。就学を間近に迎えた3月、「自分で食べてみる」と言うようになりました。サトミちゃんにとっては「自分で変わろうとしているときなんだ」と思いました。

小学校での姿から

小学校では先生が食べさせるようなことはしていません。サトミちゃんに、スモールステップで支援していったところ、めきめきと食べられるようになって、今では「給食食べられるもんっ」と自慢気に話している姿も見られます。

給食ではあまり困り感は見られないのですが、持ち物に不安があると、何度でも同じことを聞きにきます。聞きに来なくても分かるように、前に必要な情報を貼っておいたり、友達を見るように促したりする支援を心がけています。

サトミちゃんは、自分から動き出すまで待ってやってください。必ず自分で乗り越えられる子どもです。「あそこに貼ってあるよ」という支援もよいのですが、「もう一回言うからね」と何度でも言ってあげることによってサトミちゃんが安心できると思うのです。



分かりました。何度聞きにきても丁寧に応えるようにしますね。

その後、とっても張りきって過ごしています。

サトミちゃんは、苦手な野菜を食べるとき、あるいは、少し不安なことや心配な場面があったときに、「先生は自分のことをちゃんと見てくれている」「困ったときには優しくしてくれる」という安心感を味わい、絆を確かめていたのではないのでしょうか。

きっと、食べられない子どもではなく、園の先生が「自分で食べようね」と言えば頑張って食べることができた子どもだと思われます。けれど、園の先生がその不安にしっかりと寄り添い対応されてきたことが、サトミちゃんの安心につながり、「困ったときには先生が助けてくれる」という感覚をもって小学校に行くことにつながりました。

入学して、環境や生活の流れや雰囲気が変わる中で新たに不安な気持ちが生じたのでしょうか。それが「持ち物に不安があると何度でも同じことを聞きにくる」という形で現れています。形を変えて1年生の先生とのつながりを確かめに来ているのです。

そこで園の先生から「何度でも先生が直接かかわってあげてほしい」と願いをたくし、1年生の先生が丁寧に応えられてきたことで、「やっぱり先生って自分のことをちゃんと助けてくれるんだ」と思い、小学校が安心できる場になったことでしょう。

先生方がつないでいかれた安心感に支えられ、また園での自分を出してきている姿の引き継ぎもあり、給食の場面だけではなく、様々な生活の中で充実感をもてることにもつながっているのだと思います。

「いかに給食を食べられるようにするか」「給食が食べられるようになった」ではなく、その子の心がどのように揺れ動いているのかに焦点をあてて、様々な先生が思いを巡らせることが大切なのだと思います。

小学生の姿から園の保育を



小学校の先生から今の子どもの現状を聞いて
様々な園の先生と語り合い

乳幼児期の保育はこれでよかったのか

と振り返ってみることは

とても大切なことだと思います。

研究プロジェクトに参画した園の先生から
こんな感想を寄せていただきました。



この研究会に参加して2年が経とうとしています。

最初は自園と他園との大きな違いを感じていたのですが、今では自然にその気持ちはなくなり、保育園(所)でも幼稚園でも認定こども園でも、どこに通っていても「乳幼児期の育ちで大切なこと」は同じなのだと思うようになりました。

また、今年は数年ぶりに担任を持つことができ、この研究会で学んだことを自らのクラス運営で実践していくこともできました。

これまでは、情けないことにずいぶん「保育者指導型」(一方的に子どもに「教える」)で保育を進めてきたことが多かったように思うのですが、今は、何かあるたびに「どう思う?」「何がいい?」「誰かしてくれる?」「どうしよう?」と子どもたちに聞いている自分がいます。子どもたちは、まだまだ言葉足らずですが、よく話し、面白いことを考えているものだと、感心させられることが多々ありました。

ダンゴムシやセミ，動物園で出会った動物，餅米からお餅になるまで，節分のひいらぎイワシについて・・・等，子どもの発見を敏感に感じ取り，一緒に調べて「そうなんや！！」と学ぶ楽しさがクラスには広がっています。

いつの間にか，5月には柏餅屋さん，9月にはお祭りのゲーム屋さん，12月には様々なお餅屋さんがくり広げられていました。これは，子どもの気付きに，私がいちいち便乗して「次は，こう来るかな！」と予想して，そこらへんに餅焼き用の網を置いておいたり，「どんな役割があるかな？」「いくら払ったらいい？」と尋ねて，子ども自身が気付いたり，考えたりできるようにし，一緒に話し合うことを大切にしてきたからだと思います。そして，そのことを保護者にも伝えてきました。

クラスでトラブルがあっても「失敗してもいいやん。最初からうまくはいかないよ。失敗は勉強でいいことだよ」と胸を張って言えるようになりました。また「わからないと言いに来てくださいありがとうございます」と伝えることで，わからないと言うことは恥ずかしいことではなく，むしろ大事なのだと，子どもも感じてくれるようになったと思います。



大きなやかんに入ったお茶やパックの牛乳を全員のコップに注ぐという，本来，先生がやるべき仕事も，お当番制で子どもにしてもら

うことにしました。「よっしゃ-！！今日はお茶＆牛乳当番！！」と子どもは大喜びで行い，こぼしても，台ふきで拭いてきれいにし，次はこぼすものかと集中して注いでいます。こんな些細なことでも，達成感を感じているようです。

「言葉による伝え合い」「主体性」「思考力の芽生え」「協同性」「豊かな感性と表現」を以前よりはずいぶん意識して過ごしてこられたと思います。

「大人が変われば子どもも変わる」自分自身の意識を変えてきて，また職員会議

や書面でも先生方に伝えてきました。しかし、自分にもまだまだ課題があるし、園全体が変わってきているかといえば、まだまだそこまでは至っていません。

指導されたとおりの非常にまとまった発表会の演出をしていたり、おとなしく座って先生の話聞いていたりすると、それだけで「よくできた子どもたちだ」と評価されがちですが、一人ひとりの内面（心）が満たされているかどうか、叱られるから静かにするのではなく、今はどうする時間か、どうしたらみんなが嬉しいのか等、自分で考えて行動に移しているかどうかという視点で評価していきたいと考えています。

今年度から、全ての子どもたちの「月毎の個別指導計画」を立てることにしました。一人ひとりのめあてを保育者で共通して持つことで、子どもの変化を確実に感じたり、「あと一步」と変化への兆候のようなものが見えて援助の仕方を工夫したりすることもできました。

生きるって楽しい！学んで面白い！自分ってなかなかイケてるね！（クラスの中で自分の持ち味がいかされている）子どもたちが、そんなことを胸に毎日が送れることが、私たち乳幼児期の保育に携わる者の仕事かと確信しています。乳幼児期の心の育ちの充実が、小学校での生活、またその後の「生きる力」につながっていくのだと思います。

乳幼児期の子どもにかかわる施設では、保育者の心のもち方が温かく優しい人であることと、それぞれの保育の質の向上が求められると考えます。

保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改定に伴い、研修があちらこちらで行われています。どの園も園長・主任が先頭に立って、その話を頭に入れて人材育成・研修を大切に、実行に移し、それぞれの施設で日本の保育が変わっていくことを望みます。

保護者支援もつなげる



研究プロジェクトで子どもの話をしていると、よく保護者の話にも及びました。子どもの育ちを語るにあたって、その背景にある保護者や家庭の子どもへの思いやかかわりは外せません。

保護者が我が子に向き合い、子育ての楽しさを味わい、悩みや困りを乗り越えていけるよう、保護者の気持ちに寄り添い、支えていきたいものです。

園も小学校も保護者支援をしているんだという視点を持ち、子どもだけではなく、保護者についてもつないでいくことが大切だと思います。

保護者が保護者として育っていかれること、保護者が園や小学校を信頼し安心されることが、子どもが安心・安定し、その時期にこそ大切にしたい今を十分に生きることにつながります。

こどもみらい館で取り組んできた
もう一つの研究プロジェクト
「子育て支援
研究プロジェクト」
も参照ください。



子どもの幸せのために

どこからでも、
だれからでも



保幼小連携や接続をずっと以前から取り組んでおられるところ、これから始めようとされているところ、現状は様々だと思います。

「研究があたっているからできるんだ」「あの園と小学校だからできたんでしょ」と思われるかもしれませんが。けれど、個人で参画していたメンバーも、これからつながっていきたいと思っていたり、子ども同士の交流はしているけれど、どう深めていけばいいか悩んでいたりと、様々でした。先生方が互いを知り、思いをつなげることが、子どもの心の育ちにとって意味あるものだと思ったメンバーは、ここでの取組を参考にして、それぞれの園や小学校でできることで一歩を踏み出したり、更に進めたりしています。

最終的には組織で進めていくことが重要ですが、体制が整うのを待つのではなく、まずは思いをもった方から、心の育ちの連続性を大切にしたい子どもへの声かけや近隣の施設の先生との顔つなぎ等、できるところから始め、回りに広げてみませんか。

できるところからでいいんです。

だれから始めてもいいんです。

まずは、はじめの一歩！



おわりに

この時期の子どもたちにかかわる者として 共に

この研究プロジェクトをとおして

保幼小連携・接続は

園と小学校との間のギャップを埋めようと

そこだけのつながりを考えるのではなく

今、目の前にいるこの子が

どのような思春期を迎え

大人になっていくのかという

長いスパンの中で

いかに次につなげていくかを

どちらも子どもの

小さい頃を見ている者同士として

共に話し合っていくような関係が

大切なのではないかと思うようになりました

みなさんのところではどうでしょうか？

第4期こどもみらい館研究プロジェクト

子どもの心の育ちの連続性研究プロジェクトメンバー

(第4期研究プロジェクト時の園(所)校)

個人参画

太田 薫 (洛陽第二幼稚園)

押領司 敬子 (白菊こども園)

小泉 公平 (京都市辰巳保育所)

小寺 玉枝 (京都市三条保育所)

田中 康雄 (光明幼稚園)

田淵 久美 (京都市立開晴小学校)

坪田 由希子 (京都市立明德小学校)

中岡 雄介 (京都市立待賢幼稚園)

平松 由里 (吉田山保育園)

丸田 純子 (京都市立西院幼稚園)

フィールド園校

京都市立中京もえぎ幼稚園

外園 知子

土居 里己

森 希美子

中東 静香

平松 美和

山本 佳奈

京都市立高倉小学校

岸田 蘭子

上田 愛弓

南出 真里

向井 文子

安原 麻耶

アドバイザー

スーパーバイザー

鯨岡 峻 (京都大学名誉教授)

研究アドバイザー

大倉 得史 (京都大学大学院人間・環境学研究科准教授)

事務局 : こどもみらい館

柳生 和代

長坂 由美

奥 景子

表紙絵

永田 萌 (こどもみらい館館長)

平成28・29年度
京都市子育て支援総合センターこどもみらい館
第4期研究プロジェクト
「子どもの心の育ちの連続性研究プロジェクト」
保幼小連携・接続 ちょこっとハンドブック

平成30年8月発行

発行者 京都市子育て支援総合センターこどもみらい館
〒604-0883 京都市中京区間之町通竹屋町下る楠町 601 番地の1
電話 (075)254-5001
FAX (075)212-9909
URL <http://www.kodomomirai.or.jp/>